



藤川景観ワークショップニュース

かいらん

Vol.1 2009年9月
編集・発行 岡崎市
都市整備部 都市計画課

地区の個性や特色を活かした
藤川らしい風景(景観)づくりについて考えるために、
「百年後の藤川地区の風景(景観)」をテーマにした
ワークショップがおこなわれました。



格子が良いねえ。

歴史を感じさせる！

田口屋の前にて

32人の市民が参加し、様々な視点から
藤川地区の風景の現状を見て歩いた結果をご報告します。

参加者の皆様、ご協力ありがとうございました！

ワークショップを終えて



今回ワークショップを開催して、参加して下さった皆様から、いつも感じている想いや、今回初めて気がついたことなど、多くの意見を伺うことができました。また話し合いを通して、考え方を深めることもできました。

普段、何気なく見ている風景も、テーマを持って見ると新しく気づくことも多くあります。これを読んでいる皆様も、ぜひ、いつもとは違う視点で、お住まいの地域を見つめなおしてみませんか？

次回のお知らせ

今回は、第1回の「まち歩き」の結果を踏まえ、「藤川地区がめざす風景(景観)づくり」を考えます。
藤川地区の個性や特色を活かすためには、どのような風景(景観)をめざしていったらいいのか、話し合います。ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください！お待ちしております。

藤川景観ワークショップとは？

より一層魅力あるまちづくりを総合的に推進するため、市では、景観法に基づく景観計画の平成22年度策定を目指し、作業を進めています。

藤川地区は、東海道五十三次の37番目の宿場町「藤川宿」として栄え、平成8年には歴史国道に認定されました。現在は「藤川まちづくり協議会(前藤川宿まちづくり研究会)」を中心とした地域住民による宿場町に関連した文化財の保存や活用など、歴史を生かしたまちづくりの取組みが行われています。

このような背景のもと、官民協働で特に景観形成を図る重点地区として藤川地区を位置づけ、地域の皆様のご意見等を反映した風景(景観)づくりを図るためのワークショップを開催しています。

ワークショップのスケジュール

9月 第1回 藤川地区の風景(景観)の現状について

10月 第2回 藤川地区がめざす風景(景観)づくり

11月 第3回 効果的な風景(景観)づくりの手法

「景観計画」に基づく「景観形成重点地区」の範囲や景観形成の方針やルールなどに反映

第1回ワークショップの概要

9月19日の午後、第1回藤川景観ワークショップが開催されました。

第1回のワークショップでは「100年後の藤川地区の風景(景観)」を考えて、西棒鼻から東棒鼻までを3つのチームに分かれて歩きました。

各チームは、それぞれ100年後の藤川の風景に「残したい」「いらない」「欲しい(つくりたい)」ものというテーマで、まちなみを観察し、藤川の風景について話し合いました。

ワークショップの様子



チームごとに「まち歩き(景観さがし)」



話し合っ「まち歩き」のまとめ



結果を発表

- スケジュール●
- 1. はじめに(あいさつ)
- 2. 景観さがしのコツ
 - ・景観さがしのテーマの説明
 - ・テーマごとのグループ分け
 - ・他己紹介
- 3. まち歩き(景観さがし)
 - ・まち歩きのルート確認
 - ・テーマ別のまち歩き
- 4. 景観探しの発表と意見交換

藤川景観ワークショップ 第2回 開催のご案内

■テーマ
藤川地区がめざす風景(景観)づくり

とき
平成21年10月18日 日
午後1時～ 3時間半程度

ところ
藤川学区市民ホーム

多数のご参加
お待ちしております！

※室内での話し合いを行います。
持ち物などは特に必要ありません。

◆お問い合わせ先◆

岡崎市役所 都市整備部 都市計画課
電話:0564-23-6522 FAX:0564-23-6514
メール toshikei@city.okazaki.aichi.jp

■ ワークショップの結果

「まち歩き」を終えて、各チームからたくさんのご意見がいただきました。以下に主なご意見を示します。

■ 百年後の藤川に…残したい

○ 藤川宿の歴史を感じられるもの

- ・伝統的な様式の建築物(銭屋や米屋など)を残したい。
- ・街道側に傾斜した灰色の瓦の屋根(平入り)を残したい。
- ・脇本陣の塀の土台や、城山ノ川の護岸に残る石垣を残したい。
- ・常夜燈や社寺の参道を残したい。
- ・歴史を解説した道標など、歴史を感じられるものは残したい。

○ かつての宿場町の雰囲気と調和する現代建築物

- ・和風の落ち着いた色調の家は残したい。
- ・窓に格子をつけるなど藤川宿のまちなみと調和するデザインの家は残したい。

○ 山や畑の風景

- ・薬師山など、まちなみの背景となる山並みは残したい。
- ・城山ノ川の裏に広がる田園風景は残したい。

これぞ藤川原風景!



格子のあるまちなみや瓦屋根、石垣



■ 百年後の藤川に…いらない

○ 藤川宿のまちなみの雰囲気を守るために

- ・派手な色や大きい看板は歴史的な雰囲気に合わない。
- ・電柱や電線をなくしたい。
- ・道路に面して、車や車庫が目立つのはよくない。
- ・アスファルト舗装の色や、側溝のふたは歴史的な景観に合わない。
- ・城山ノ川沿いの白いガードレールが目立ちすぎる。
- ・東棒鼻の背景の、工場などは壁面が見えないほうがよい。
- ・常夜燈の周辺の電柱広告はないほうがよい。
- ・狭い街道沿いを車がたくさん通り抜けるのはよくない。
- ・東棒鼻付近の国道1号の防音壁は色調や素材が歴史的な雰囲気に合わない。

○ 山や畑の風景

- ・山の稜線上の鉄塔はないほうがよい。
- ・白いガードレールや工場の建物は田園風景にそぐわない(風景にあった色に変えたほうがよい。)

少し危ないかな?



電柱や車の通り抜け



山の稜線の鉄塔、白い工場の壁面

■ 百年後の藤川に…欲しい(つくりたい)

○ 建物等について

- ・藤川宿全体を銭屋のような格子のある家が連続するまちなみにしたい。
- ・藤川宿第二資料館は、建て替えて本陣を再現したい。
- ・脇本陣を中心として、地区内の町家を移築し、古いまちなみを集約して守ってほしい。
- ・格子にも種類があるので、この違いなどの特徴も後世に伝えたい。
- ・シャッターや壁などは、落ち着いた色で統一したい。

○ 橋や道路

- ・橋の欄干を歴史を感じられる素材や色合いにしたい。
- ・城山ノ川のコンクリート護岸は、昔ながらの土手や石垣にしたい。
- ・道路の舗装は、松並木から東棒鼻までは、歴史的な色合いにしたい。
- ・東棒鼻に松並木を再現したい。
- ・関山神社の参道を線路が横断しているが、道標を立てて参道と分かるようにしたい。

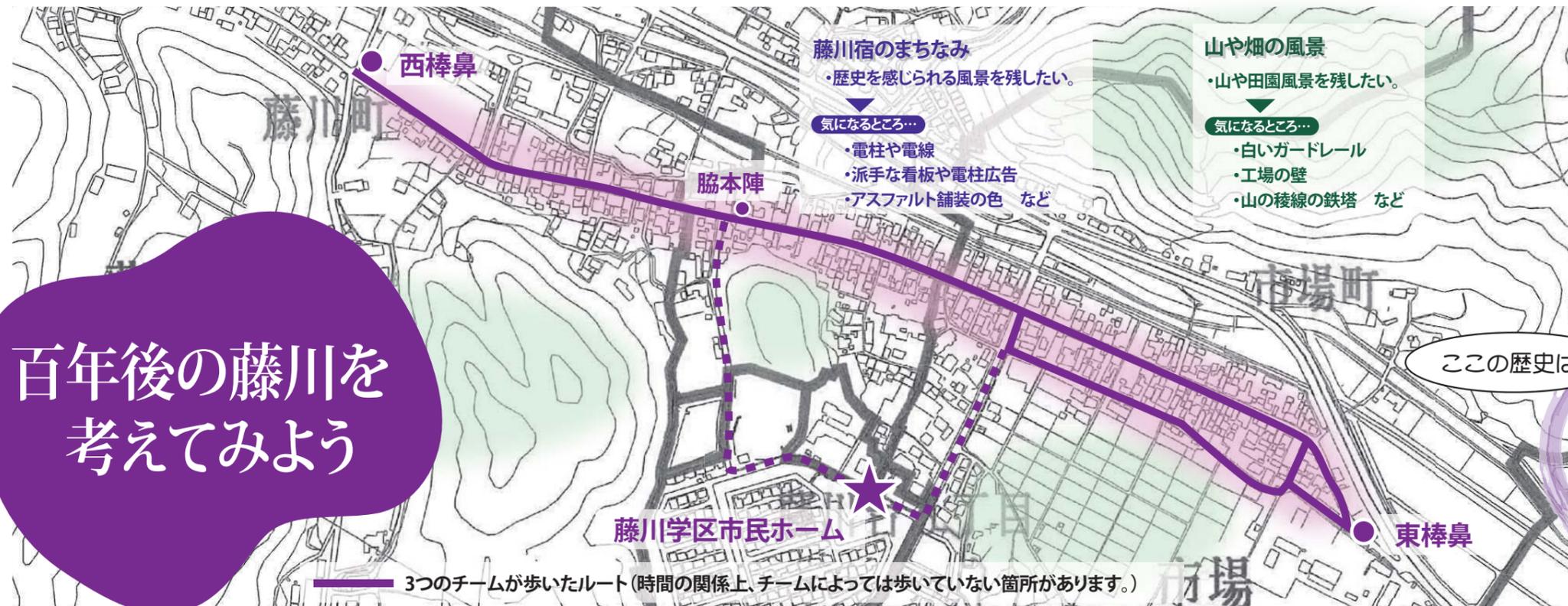
何とかしたいね。



本陣の再現



土手や石垣の護岸



百年後の藤川を
考えてみよう

3つのチームが歩いたルート(時間の関係上、チームによっては歩いていない箇所があります。)

今回の「まち歩き」では、東海道の藤川宿をしのばせる風景に関連するご意見が多く挙げられました。

また、まちなみの背景となる山々や、田園風景に関連する意見もありました。

「残したい」「いらない」「欲しい(つくりたい)」の意見は視点こそ違いますが、同じ内容をさしているものも多くあります。今回の結果をもとに、藤川地区の風景(景観)をどのようにしていったらよいのか?ということをも第2回のワークショップでさらに考えていきます。

この歴史は…



ちょっと休憩…



ベンチは助かるね～